

当面の日程

- 17日 県本部2024労働安全衛生集会
(ひょうご共済会館)
22・26日 第44回県本部野球大会(丹波市内)
27日 県本部第216回中央委員会(県民会館)
29日 第44回県本部女子バレーボール大会
(ベイコム総合体育館)

発行 全日本自治団体労働組合 兵庫県本部

〒650-0004 神戸市中央区中山手通3-4-8 大東ビル TEL078-392-0820 FAX 078-392-0920
http://www.jichiro-hyogo.jp/ E-mail:jhyogo@jichiro-hyogo.jp



シリーズ「尾西が斬る」

1 連載するにあたって

人勧で賃金は決まるのか？

11月の賃金確定期に向けて、人事院勧告、ラスパイレス指数、各種手当、財源問題や確定闘争の意義等をシリーズでお伝えしていきたいと思っています。

「賃金は人勧で決まる？」

原則は労使交渉で決まります。その根拠となる労働基本権について考えます。日本の最高法規である憲法は、第28条で「勤労者の団結する権利及び団体交渉その他の団体行動する権利

はこれを保障する」と労働基本権(団結権、団体交渉権、団体行動権)について定めています。しかし、日本ではすべての勤労者が対象ではなく、公務員は一部権利が制約されています。多くの先進諸国で公務員の労働基本権が認められていますが、日本政府は、ILO(国際労働機関)からの再三にわたる公務員に対する労働基本権付与の是正勧告を無視し続

けています。政府は、公務員の団体行動権行使(スト)が、市民生活に与える影響を懸念していますが、差し迫った緊急事態を無視する職員がいるのでしょうか？

職場は、毎日が緊急事態と言っても過言ではないのが現状です。さて、労働基本権制約の代償措置としての「給与勧告制度」。勧告そのものは、国家公務員に対するものですが、地方自治体の賃金決定に大きく関わります。しかし、この勧告だけに依拠することなく、生活実態を踏まえた賃金を要求する必要がある。賃金確定期に向け、準備を進めよう。

シリーズ「尾西が斬る」は、これから全8回でお届けする予定です。機関紙「自治ひょうご」は組合員向けですが、当局側も情報収集のために読んでいるかもしれません。こっそり読んで、首長や自治体幹部には、財政難を私たち組合員に押し付けることなく、国・政府に対し人員不足や、厳しい財政事情を訴え、改善するよう声を上げていただくことをお願いします。



各グループワークの内容を発表する参加者

県本部教宣委員会は単組執行部強化や次世代育成をめざした労働学校・基礎編を5月31日、ひょうご共済会館で40人が参加し開催。基礎的な講演を元にグループワークで参加者同士の交流を深めた。

労働学校の開校にあたり足立育生副委員長は「本日は講演とグループワークがメインとなるが、意見交換した内容や雰囲気職場に持ち帰ってもらいたい」と主催者あいさつをした。

今回の労働学校・基礎編は「労働組合のイメージ」をテーマとし進められ、午前中は「労働組合の意義」を尾西亮太郎書記長、「私たちの権利」を戎剛副委員長がそれぞれ講演を行った。講演後は4グループに分かれ事前アンケートを元に自己紹介と合わせ、今感じている組合のイメージを率直に出し合った。

午後からは「自治労共済制度Q&A」を石井希佳共済県支部事務局長と福永大吉阪神淡路ブロック事務局長が掛け合いで進め、組合員に有利な自治労共済制度について解説を行った。

その後、再度グループワークを行い、今日の3つの講座について、お互い意見を出しあった。講演を聞き「振休・代休の違い。知っているようで、理解できていない部分があった」などの感想も聞かれた。

グループワーク終了後は、各グループの意見交換のまとめの発表を行った。「自分の単組の常識が他では常識とわかった」「組合があることで、笑顔で働くことができる」「今ある賃金労働条件は、これまでの組合活動の積み重ねなど組合に対しての向きの感想が聞かれた。

労働学校基礎編

組合のイメージつてなに

基礎講座をもとに意見交流

本部中央委員会

『岸まきこ』の浸透を人勧期に向けた方針を確認

庫は県本部会議室に中央委員が集まり、全体で約300人が出席し、当面の闘争方針や2024年度一般会計・特別会計補正予算について確認した。

各中央委員からは、各県における2024春闘、賃金・労働条件改善をめぐる人勧期の取り組み、ジェンダー平等推進、能登半島地震被災地支援などの発言がされ、人勧期に向けた取り組み、人員確保闘争に向けた当面の闘争方針を含む全ての議案をe投票による採決で行い、いずれの議案も賛成多数で承認された。

中央委員会は最後に、能登半島の一刻も早い復旧・復興に向け全力で取り組むとともに、人勧期闘争の推進、組織強化・拡大、憲法改悪阻止、平和を守るための強化するためにも、第27回参議院議員選挙に向けて、自治労組織内候補予定者「岸まきこ」の一層の組合員への周知・浸透・定着の取り組みをはかっていくことを柱とする「闘争宣言」を採択し、石上委員長「団結がんばろう」で閉会した。

しこう

ピークは過ぎたが、根強い人気のアニメ「鬼滅の刃」。大正時代を舞台に、人を食べる圧倒的な力を持った鬼を、剣士たちが退治していくストーリーだ。コミックスを全巻読んだが、主人公や他の剣士たちはもちろん、鬼たちの背景も元は厳しい境遇を抱えた人間だった。丁寧に描かれ、単純な勧善懲悪とならない設定に惹き込まれた。この物語を読み進めながら、どこか労働運動に通じるものを感じた。強い鬼を経営側・当局の、そして懸命に鍛錬しながら鬼と戦う剣士たちを労働組合役員のメタファー(暗喩)として読むと、一気に深い物語となった。超人氣作品となった「鬼滅」だが、労働組合は毎年組織率を下げ続けて、昨年は16.3%の史上最低を記録した。長時間労働やハラスメントを正し、生活に必要な賃金を求める闘いは「鬼滅」に負けず劣らずカッコいいと思うのだが...

いまいち座

選挙 or ネットビジネス



吉田ノボ

メディカルワーカーズアクション

地域の保健・医療をアピール

処遇改善・独自課題なども共有



街頭でのアピール行動

2024メディカルワーカーズアクションが5月25日、58人が参加し神戸市内で開催された。主催者を代表して山根正也議長からあ

いさつを受けた後、澤田拓実事務局長より本日の集会の開催趣旨と医療職場に関する課題について基調提起し、自治労本部衛生医療評議会の平山春樹事務局長が「医療職場を取り巻く情勢」について現在の課題・取り組みについて報告し、情報共有を行った。

各ブロック報告では診療報酬改定に伴う処遇改善の現状や管内の病院が抱える課題について、県職からは「呼出手当の運用緩和、休暇制度の対象拡大、始業時刻前の出勤の取り扱いなどの交渉内容」神戸からは「看護補助者の処遇改善、看護補助者の配膳車事故の原因究明や再発防止の取り組み」阪神淡路では「市立伊丹病院と近畿中央病院との統合、三田市民病院と済生会兵庫県病院との統合が進んでいるが、労働条件などの協議が進まない状況」播磨では「経営形態変更につ

いて学習会を開催し、病院経営の重要性を組合員にも認識してもらっている」但馬丹波では「新規採用の組合加入率は高いが、人員確保が難しい現状や高齢者部分休業の制度化が進まない」との現状報告がされた。

集会後は元町駅周辺で「地域の保健・医療を守るため声を上げるのは労働組合とあなたです」のメッセージを添えたテッシュを配布しアピール行動を行った。



講演を熱心に聞く参加者

県本部は神戸市・魚崎会館で6月1日、第25回平和・人権・環境を考える集いを開催し、25単組68人が参加した。

NPO法人気候ネットワークの山本元さんによる「地球沸騰化時代と人権・気候変動問題と次世代への責任」の演題で行われた記念講演では、「国立環境研究所の資料で『20世紀後半以降の温暖化の主な原因は人間活動である可能性は疑う余地が無い』と記されている。国連では、事務総長が2023年の記録的な高温に『地球沸騰化時代』と表

現し、2022年総会決議では『清潔で健康的かつ持続可能な環境への権利』を『人権』と認めた。日本では、温室効果ガスの半分が火力発電所など超大口の135事業所から排出されており、風力発電・太陽光発電を中心とした再生エネルギーの導入を進める政策が必要である。費用対効果が大いに取り組みとして、『住宅断熱』が挙げられる。より多くの人の行動を変えるために①気候危機は人権侵害を含む重大な問題と認識、②化石燃料利用からの早期脱却、③省エネ推進お

よび地域に根差した再生可能エネルギーの普及、④原子力発電に依存せず脱炭素社会の早期実現、⑤市町村・都道府県・国などあらゆる方向からの気候危機への対応の働きかけ等、新たな政策が必要だ」と訴えた。

記念講演後の「労働組合の平和活動を考える」「ネットにおける差別の現状と自治体労働者への期待」と題した2つの分科会、「再生可能エネルギー」をテーマに神戸市建設局東水環境センターへのフィールドワークについては、ホームページへ掲載予定。

平和・人権・環境の集い

人間の活動が温暖化を加速

次世代につなぐ行動で危機への対応を

女性組合員交流会

スイーツ作りで交流

悩みを出しあいアドバイスも



個性的なスイーツ作りに挑戦中

県本部は5月25日、神戸市ケニーヒスクローネ手づくりスイーツ館で2024女性組合員交流会を開催し、15単組51人が参加しスイーツ作りを体験した。

はじめに藤原潤子女性部長より「今回は初めての企画多くの申し込みがあり、

その後は喫茶スペースへ移動し、ケーキセットを食べながら意見交流として、各テーブルで自分たちの職場の問題点や改善したいこと、しんどいことを出し合い、日頃の悩みを共有、アドバイスしあった。

キャンセル待ちも続いていた。配席をバラバラにしているのが、初対面同士でもケーキ作り中だと声も掛け合いやすいし、お互いに話をしながら交流をしてほしい。『今日の企画が楽しかったな、組合の活動してみたいな』と思っただけの声をかけてほしい。一緒に活動しよう』とあいさつした。

スイーツ作り体験は事前申し込んでおいたケーキをそれぞれの好みで作り上げていく。初対面の組合員同士でも、作りながら「上手ですね」「トッピングがかわいい」など打ち解けて会話が弾んだ。

こくみん共済 NEWS
5120A034

自治体職員の
交通事故に
大きな力を発揮する

じちろうマイカー共済
自動車総合補償共済

交通事故による、まさかの失職に備えを!

公務員は交通事故を起こしたことにより、失職することがあります。一瞬の不注意であっても過失の罪を問われて職を失うのです。この場合、懲戒免職と同様に、退職金は支払われない場合がほとんどです。このような事態を防ぐために、じちろうマイカー共済があります!

こくみん共済 (全労済) 全国労働者共済生活協同組合連合会
自治労共済 推進本部
全日本自治体労働者共済生活協同組合

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地(先)の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

ご不明な点があれば、
まずは所属の組合にご連絡ください。

まさか自分が、
事故を
起こすなんて...

